

日田商工会議所 第3回 サマータイム委員会 議事録

1. 日 時 令和8年5月13日（水） 11:00～11:40

2. 場 所 日田商工会議所 議員サロン

3. 出 席 者

（会頭）瀬戸 亨一郎

（委員長）高橋 進太郎

（担当副会頭）園田 匠

（副委員長）浦中 直也

（専務理事）樋口恒成

（委員）高嶋 秀武、高倉 頼利、長谷川 久、岡見 要一郎、宮崎 信二

（事務局）大石 昭典、伊藤 宏、櫻木 成実

4. 議事経過

1) 委員長挨拶

- ・ 高橋委員長より、5月の連休明けの多忙な時期における出席への謝辞があった。
- ・ 前回2月の委員会から2ヶ月スパンでの開催を予定していたが、スケジュール調整の関係で本日の開催となった背景を説明。
- ・ 本日は、国内100事例のロードマップの確認に加え、浦中副委員長より「いいちこ日田蒸溜所」での具体的なサマータイムテスト導入案が発表される。
- ・ 本委員会の活動を通じて、各企業の状況に合わせた前向きな一步を踏み出したいとの方針が示された。

2) 議題

①国内の導入事例（別紙 参考資料①）

- ・ 高橋委員長より、事務局が作成した「日本国内の早期勤務制度（サマータイム）導入事例 100選」について説明があった。この資料は自治体、農業、工業、サービス業の4部門に分類されており、特に前回の委員会で白石委員（本日欠席）から要望のあった農業系の事例も手厚く収集されている。
- ・ 近隣の臼杵市役所が6月から働き方改革やDX推進の一環として、開庁時間を1時間短縮（または時差出勤）する検討をしているという新聞報道が紹介された。
- ・ 議論の中で、高橋委員長は「日田市内だけでなく、県外取引がある企業が導入した場合、取引先との調整が可能なのか」という懸念が周囲の経営者から出ている現状を共有した。
- ・ 参考資料に基づき、成功事例（伊藤忠商事の朝型勤務による生産性向上など）と失敗事例（近隣住民への騒音苦情、取引先との連絡不備など）の双方が確認され、導入にあたっては「近隣への配慮」や「取引先との事前調整」が重要であることが再認識された。

②いいちこ日田蒸溜所 サマータイム について（別紙 参考資料②）

- ・ 浦中副委員長より、三和酒類(株)日田蒸溜所における「サマータイム制（時差出勤）テスト導入案」のプレゼンテーションが行われた。
- ・ 背景：昨年、日田市が猛暑日・真夏日を合計90日以上記録したことを受け、40度を超えることもある製造現場の負荷増大と熱中症リスクを回避することが急務である。

- ・ 実施内容：2026 年 8 月 1 日から 12 日までの期間、通常「8:00～17:00」の勤務時間を 1 時間前倒しして「7:00～16:00」とする。
- ・ 対象者：現場負荷の大きい「製造・保全部門」の計 15 名。接客を伴うショップ部門や庶務は、顧客への周知等の影響を考慮し今回は対象外とする。
- ・ 検証項目：熱中症件数、生産・残業状況、電力使用量、および対象者へのヒアリング。特に 8 月上旬は「仕込み」が止まり、工事管理が中心となるためテスト導入に適しているとの説明があった。
- ・ 質疑応答：
 - － 高嶋委員より、建設業における導入の難しさが指摘された。特に現場が遠方の場合、始業を早めると家族（弁当準備等）の起床時間に多大な影響が出ることや、公共工事において役所の対応時間とズレが生じる懸念が示された。
 - － 長谷川委員より、労働組合との交渉について質問があり、浦中副委員長より「組合はないが、単発の出社時間変更などの実績はあり、まずは現場リーダー層に話を始めている」との回答があった。
 - － 宮崎委員より、パート従業員（特に若年層の母親等）の家庭事情への配慮が必要であるとの意見が出され、浦中副委員長も「個別の事情を考慮し、前向きに取り組める環境作りが不可欠」と応じた。

③委員会内サマータイム計画

- ・ 高橋委員長より、本委員会のメンバー企業においても、次回までに「自社で取り組めるサマータイム計画または熱中症対策案」を提出してほしいとの要請があった。
- ・ 高嶋委員より、「サマータイム」という言葉に限定せず、まずは現場の冷風機設置や空調服の導入といった「熱中症対策」の具体的な取り組み事例から集め、その延長線上に勤務時間の変更を位置づけるべきだとの提案があった。
- ・ 決定事項：次回（6 月末予定）までに、各社で検討中の「計画案」または「現行の対策事例」を事務局にメールで提出する。事務局は会議の 5 日前を目途に資料を集約し配布する。

4) その他

- ・ 瀬戸会頭より、1 週間という期間を限定したテスト導入は非常に現実的で良いアプローチであるとの評価があった。また、今年の結果を検証し、来期以降の本格導入や全社展開に繋げるプロセスを注視したいとの発言があった。
- ・ 高嶋委員より、大分県職員が時差出勤を活用している実態などが紹介され、園田副会頭より行政側の柔軟な動きと民間の取り組みをどう同期させていくかが今後の課題として共有された。
- ・ 次回日程：令和 8 年 6 月末を目途に調整。

3) 閉会 （11：40）